

ゆとり

(当院の理念)

地域の基幹病院として、患者様に信頼され、愛され、満足される、質の高い医療を目指します。

(基本方針)

1. 高度医療の充実
 1. 高齢化社会への対応
 1. 予防医学の充実
- を目指した、「手作りの医療」を心がけています。

撮影者：竹之下歩美

** Topics **

TOPICS 1 新規導入機器の紹介

TOPICS 2 夏の体調管理に注意!!

～お知らせ～

- ・平成27年5月より**糖尿病専門外来**が始まっています。詳しくは内科または循環器科スタッフまでお問合せください。
- ・平成27年7月より、**外来担当表が一部変更**になりました。詳しくは当院内科スタッフにお申し出ください。

■当院ホームページ

<http://www.shimada-hsp.or.jp>



※スマホ・タブレット版
外来担当表ダウンロード (PDF)

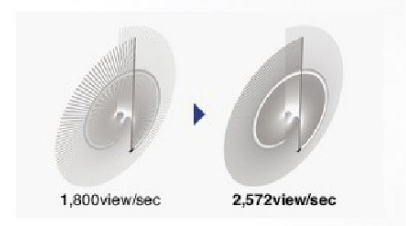
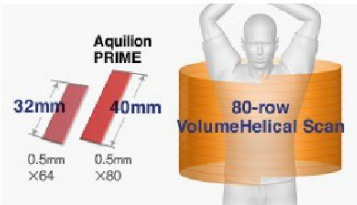


医療法人積仁会
島田総合病院

〒288-0053
千葉県銚子市東町5番地の3
TEL. 0479-22-5401 FAX. 0479-23-3613
URL <http://www.shimada-hsp.or.jp/>

最新80列マルチスライスCT導入

PRIME
Aquilion™ **AIDR 3D**
integrated



- *新型検出器PUREVISION Detector
- *AIDR 3D Enhanced
- *SEMAR(シーマー):Single Energy Metal Artifact Reduction

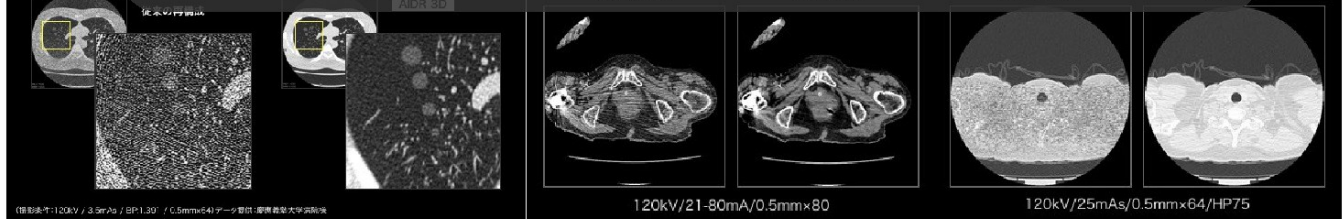
東芝独自の高精細0.5mmスライスでの超高速ヘリカルスキャン
ガントリ回転速度は0.35秒、64列から80列への検出器多列化により
1回転で40mm幅を0.5mmスライスで高分解能撮影します。
寝台移動速度は160mm/secを実現。
精密検査なら5秒以内、広範囲撮影でも10秒以内で完了。

高速撮影と高精細撮影が両立できます。
高速スキャン時の高精細画像を可能にしたDAS (Data Acquisition System)
CTの高速化は、検出器の多列化や回転の高速化だけでは達成できません。Aquilion PRIMEは、検出器が捕らえるデータのサンプリング
精度を従来の約1.5倍に向上させ、秒間2,572Viewを実現。高いサンプリングレートにより、0.35秒のヘリカルスキャンでも全身領域
で、部位を問わず高い時間分解能を実現しています

低被ばく撮影をスタンダードに変える、AIDR 3Dテクノロジー

臨床での使用に耐える高画質・検査スピードと、被ばく低減を両立させること。
あらゆる検査で、術者が意識しなくても線量低減が図られること。それがAIDR 3Dのコンセプト。

東芝はこのAIDR 3Dテクノロジーを標準搭載。検査に関わるすべての人に、優しい診断環境を提供しています。



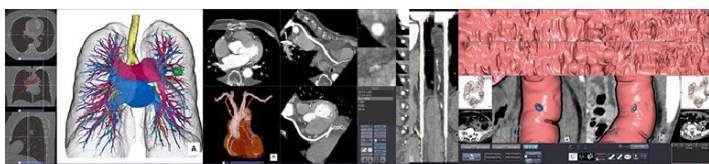
ziosoft

3DWorkstation

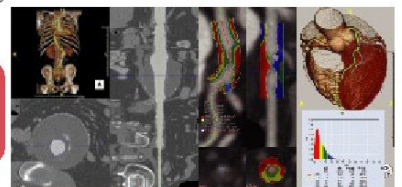
ZIO station2 & Aquarius INtuition



CTやMRIなどのモダリティから得たボリュームデータを画像処理し、
3次元表示や定量解析を行うことで診断をサポートする医用画像処理ワークステーションです。
2,000スライスを超える大容量データもストレスなく高速リアルタイム処理。



2台で高速な
画像処理・解析



あなたの心臓、大丈夫ですか？

冠動脈狭窄・心筋梗塞・大動脈瘤・閉塞性動脈硬化症・下肢静脈瘤

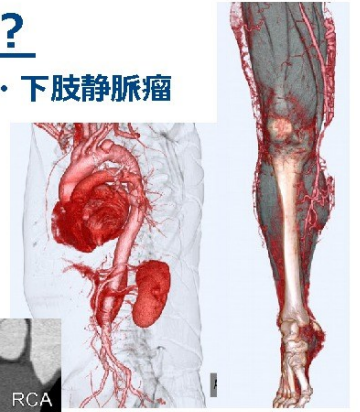
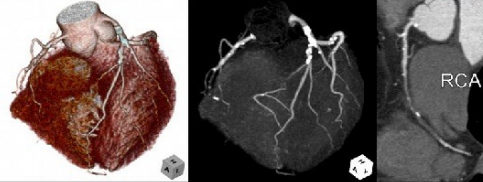
80列マルチスライスCTによる心臓検査

従来までは、心筋梗塞・狭心症などといった虚血性心疾患の診断には、足の付け根から細い管を入れ、管から造影剤を流して撮影する心臓カテーテル検査が必要でした。しかし心臓カテーテル検査には、痛みや医療費など患者様への負担が大きいため、低侵襲で簡便な検査法が研究され、近年ではこの課題を解決するCTを用いた冠動脈CT検査が実用化されました。

当院では、**X線の被曝が少ない最新型80列マルチスライスCT**を用いて、被曝を少なくしつつ、心臓カテーテル検査に匹敵する検査を導入しました。

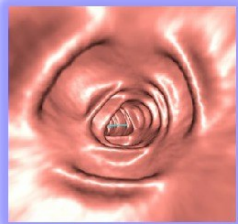
80列マルチスライスCTの特長

- ・日帰り検査可能です。
- ・前処置なども不要です。
- ・冠動脈検査中の呼吸停止時間が5～8秒です。
- ・造影剤の使用量が通常検査の半分（約50ml）で、負担が少なくなります。
- ・心臓カテーテル検査に比べ、低侵襲に検査可能です。

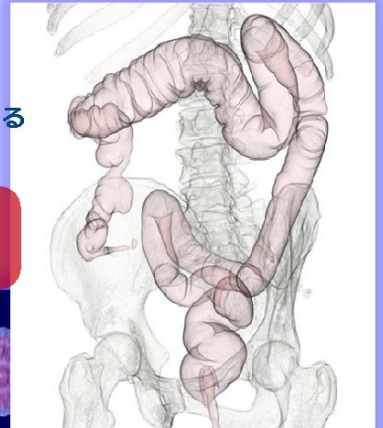
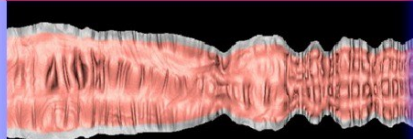


楽な大腸検査してみませんか？

レントゲンや肺CT検査と同じように、体内に検査機器を入れずに体の外から撮影するCT写真によって、大腸内の病変を探していく、とても画期的な検査手法です。



CT Colonography
CT コロノグラフィー



	内視鏡	CT
長所	<ul style="list-style-type: none"> ・直接腸内を観察できる為、病変の検出が高い。 ・病変があった時、組織を採取し、検査することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械による体外からの撮影であるため、苦痛が少ない。 ・三次元的に観察できるため、大腸の全体像や病変の形状、多臓器との位置関係が正確に把握できる。 ・腹部を撮影するため、大腸の外側の情報も把握できる。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ・カメラが腸内を通るため、苦痛を伴うことが多い。 ・腸のヒダに隠れている病変については、カメラの死角となり、検出しにくい。 ・発生率はきわめて低いが、カメラにて腸内を傷つけたりするリスクが伴う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織検査ができない。 ・病変の色や固さの情報が得られない ・平坦な病変や画像上認識できない病変は検出しにくい。

腹部CTによる体脂肪検査

100ml未満
皮下脂肪肥満



メタボリック症候群
心筋梗塞・脳梗塞のリスク大

100ml以上
内臓脂肪肥満

☆隠れ肥満にご用心

体脂肪には、皮下脂肪と内臓脂肪があり、見た目には痩せていても内臓脂肪が多くついているケースがあります。一般にはBMIや腹囲を計測しますが、CTの方が正確に計測できます。

☆隠れ肥満がなぜ悪いの？

内臓脂肪から分泌される物質の影響で糖尿病・高血圧・高脂血症が進行し、いわゆるメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）になります。進行すると動脈硬化を引き起こす可能性が高いことが最近知られています。

動脈硬化が進行すると、心筋梗塞や、脳梗塞などの重篤な病気を引き起こしやすくなります。

☆隠れ肥満の診断は当院でお任せ下さい。

内臓脂肪は皮下脂肪に比べて、増えるのは早いですが比較的減らしやすい脂肪だと言われています。大病を患う前に生活改善することができます。当院が導入した最新のX線CT装置は、内臓脂肪を簡単に計測することができ、適切なアドバイスをさせて頂くことができます。

1. 夏の代表格「熱中症」

夏といえば注意しなくてはならないのが**熱中症**です。

人の体は汗をかくことで体温を調節していますが、汗は体内の水分だけでなく同時にミネラル（塩分）も出してしまいます。あまり多くの水分やミネラルが失われると汗による体温の調節がうまくできなくなってしまいます。すると、逃げ場を失った熱はどんどん体にたまってしまい、熱中症になってしまうのです。

- ①こまめに水分・塩分の補給をする
- ②暑い外での激しい運動は避ける
- ③涼しい室内で体を休める

などの熱中症対策を心がけましょう。また、水分補給には**麦茶や経口補水液**など利尿作用の少ないものがオススメです。スポーツドリンクは水分とミネラルが同時に補うことができるとてもいい飲み物ですが、**糖分が多め**なので飲みすぎには注意しましょう。



2. 夏の空気の乾燥と夏風邪

「えっ、ジメジメと湿気が多い夏に空気が乾燥するってどういうこと?」と思った方。

実は**エアコンによって空気が乾燥してしまう**のです。エアコンは涼しい風を送り出すだけでなく、こもった湿気を排出することもやっています。ある程度までの除湿は不快なジメジメがなくなって快適に過ごすことができるとても良いです。しかし、あまり長時間つけっぱなしにしておくと今度は空気が乾燥しすぎてしまいます。

つまり、風邪のウイルスにとってはとても快適な環境へと変わってしまうのです。さらに乾燥によってのどや鼻の粘膜は湿気の無い空気によって傷つき、弱くなってしまいます。



するとそこへウイルスがくっついて増殖をしてしまい、風邪をひきやすくなってしまいます。それにより、近年では冬に多いインフルエンザも、このエアコンによる**空気乾燥によって夏にもその患者数が増えています**。

エアコンをつけるだけでなく、加湿器を上手に使用して適度に湿度も保つよう心がけましょう。また、扇風機等で空気を循環させて冷えすぎないようにするのもコツです。

エアコンの設定は27℃前後で湿度は40~50%程度を保つようにし、暑すぎず適度に湿気がある快適に過ごせる環境を整えましょう。

3. 上手に体調管理を!!

夏は冷たいものを口にし、体が内側から冷やされてしまう機会も多くなります。

すると外は暑く内からは冷やされることで、体温は一日の中でめまぐるしく変化をしています。このような状態が続くと、**免疫力が低下をして体調を崩しやすくなってしまいます**。

暑いからと冷たいものばかりではなく、時には温かいものを口にしましょう。

また、高温多湿の状況は食べ物傷みやすく、細菌も繁殖しやすい状況ですので食中毒にも注意が必要です。

特に生ものには気をつけましょう。さらに、直接口をつけて飲んだ飲み物をそのまま放置しておく、容器の中で雑菌が大量に増えて食中毒を起こすことも報告されています。

食べ物でなく飲み物の食中毒にも気をつけましょう。



夏には熱中症や夏風邪だけでなく、いろいろと体調管理に気を付けなければいけないことがたくさんあります。

正しい対処法をもって、ひとつひとつに注意をして厳しい夏を乗り切りましょう。